

HIDETO TAKEUCHI

8



ベリファイケーションテクノロジー取締役CEO

竹内秀人

「消極的な起業」から、唯一無二の
LSI機能安全サービスを構築

竹内秀人さんは、大学でマクロ経済を専攻した文系の学生でした。卒業後、プリント配線板CAD(コンピュータ支援設計)システム開発・販売を手掛ける企業に入社し、4年目に出会ったのが半導体でした。偶然、会社が米国のEDA(半導体や電子機器の自動設計)ベンチャーに大規模出資し、初めてLSI(大規模集積回路)の仕事に従事することになりました。

「ちょうど転職を考えていた時期だったので、手を挙げて異動しました。EDAに従事するうちに、半導体業界の変革の速さや勢いに魅了されていきました」と、竹内さんは振り返ります。しかし、様々な顧客から設計に関する相談を受けたり、提案をしたりしていく中で、半導体回路の検証を巡る課題を実感したそうです。そこで、「回路の設計者と検証者を分け、第三者的に検証を行えば、バグのない高品質なLSI回路が出来上がるはず」と、ベリフィケーションテクノロジー株式会社(Vtech)を2003年に設立しました。

当初は、竹内さんとエンジニア1人だけでのスタート。リーマンショック不況などの危機を乗り越えながら、Vtech社は100人を超える役員・社員を有するまで成長。ドイツ、中国、フィリピンなどへの世界展開も果たしています。今後は、LSIの安全機能・セキュリティ分野における、世界唯一の設計/検証・コンサルティングサービスを展開し、さらなる発展を目指します。

「2年半耐えたら、どんな困難も乗り越えられる」

竹内さんは、会社勤務時代に顧客70社を調査し「LSIの検証はビジネスになる」と確信しました。しかし、社内で事業化を考えていた矢先の2000年ごろ、ITバブルが崩壊。社内投資がまもなくなくなりました。転職を考えていたところに、社外から「起業すべき」との助言を受けたそうです。「親族が事業に失敗したのを目の当たりにしてきたこともあり、まったく気乗りがしなかった」そうですが、後に一緒に事業をスタートすることになるエンジニアから背中を押され、起業に参加。1年後には共同出資者が撤退し、取締役CEOとして経営を担うことになりました。

1年目にベンチャーキャピタルから1億円の出資を獲得、黒字も達成して、経営は順調な滑り出しでした。半導体業界の第三者検証のニーズに合致したほか、思いがけず設計の受注も次々と舞い込みました。最大の危機が訪れたのは、2008年のリーマンショック後のことです。売り上げが10分の1まで減少。「このままでは立ちいかなくなる」と、大幅な社員のリストラを検討するまで追

い込まれました。「ところが、リストラ発表の前日に大手企業から受注の電話をいただいたのです。こんな電話が来るということは、市況は回復し始めたに違いない」と、リストラ策の発表を急遽中止。営業を強化すると、次々と仕事が取れたそうです。この経験から、竹内さんは、「2年半の間辛抱すれば、どんな天変地異でも会社は保持できる」と、経営に自信を持つようになりました。

将来の信条を語り、実行に移す

竹内さんはリーマンショック後、高利益率を目指すことに軸足を移しました。「高利益を確保するには、他社ができないものや高品質のサービスを提供しなければなりません。社員と将来の信条を語り、その達成のために我々は何をすべきかを考えます」と、経営戦略を語ります。そこで生まれたのが、顧客にLSI開発に伴う「リスクを見える化」し、国際安全規格に合致させる設計/検証と、コンサルティングのワンストップサービスです。また、サイバー攻撃などから回路を守るセキュリティ分野も強化しており、これらは世界でも唯一無二のサービスになっているそうです(2024年6月現在)。

今後は、売り上げ単価の高い海外市場に重点を置く予定です。「半導体分野は世界の成長産業のベスト3に入ります。日本の課題はマーケティング。そこを底上げすれば、魅力的な業界です。経営は楽しいし、チャンスはたくさんあります」と竹内さん。「有言絶対実行」の精神で前に進みます。

竹内秀人

【PROFILE】出身地：東京都/信条：有言絶対実行/受賞歴：「九都県のきらりと光る産業技術」表彰/趣味：温泉巡り 【CAREER】CADシステム開発・販売会社を経て、ベリフィケーションテクノロジー株式会社を設立